

B 関東大震災②～帝都の復興～

氏名 _____

～今日の「問い」～

関東大震災で壊滅した帝都の復興はどのように行われたのだろうか
また、今回の復興はその後の東京にどのような影響を与えたのだろうか

(1)プレ記述

今日のテーマについて、前回の内容も踏まえて自分の考えを書いてみよう！

(3)ジグソー活動

①他の資料を担当した人の話を聞いて、分かったこと・気になったことを書いてみよう！

資料 I ・ II ・ III ←どの資料の話か、○をつけよう

分かったこと・気になったこと

資料 I ・ II ・ III ←どの資料の話か、○をつけよう

分かったこと・気になったこと

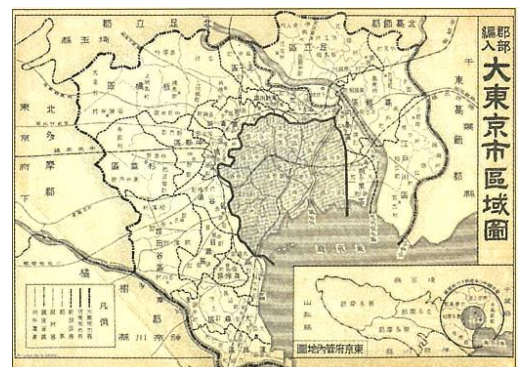
②班で意見をまとめて書いてみよう！

(4)クロストーク

他の班の発表を聞いて、分かったこと・気になったことを書いてみよう！

(5)ポスト記述

(1)～(4)の活動を通して、最後に「テーマ」に対する自分の「答え」を書いてみよう!!



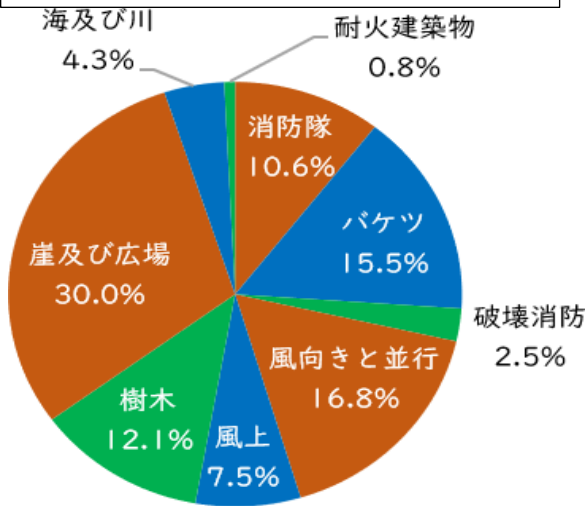
エキスパート資料Ⅰ

～延焼を防ぐための街づくり～

延焼：炎から出る輻射熱と火の粉によって隣接する建物などに火が移り、火災範囲が拡大すること

(1) 関東大震災のときの延焼防止の要因

グラフ：震災時の延焼の焼け止まりの要因



地図：帝都の延焼範囲(赤)と延焼を防いだ空間(水色)

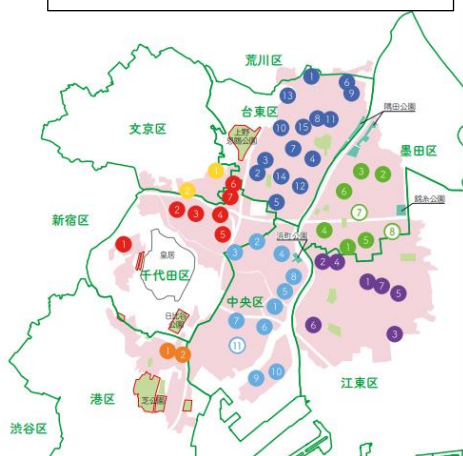


Q1 上のグラフと地図を参照し、都市の復興を行う際に、関東大震災と同じ被害が出ないための街づくりとして必要なものは何だろうか。考えてみよう！

(2) 後藤新平の帝都復興計画および実施

- ①公園：公有地として市民が出入り可能な緑化されたオープンスペースであるということから、市民の健康促進やレクリエーション、憩いの場としての役割を持つ。また、震災発生時には市民を救う防火帯や避難地としての役割も担うため、現代においても都市の重要なインフラといえる

地図2：震災復興公園配置図

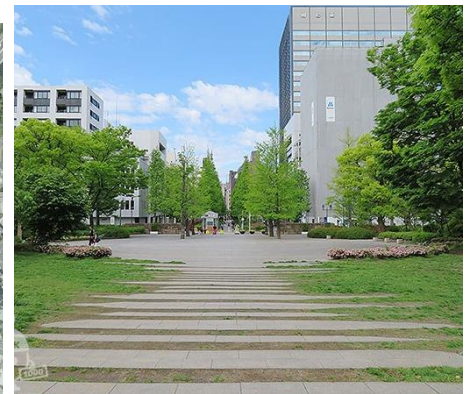


- 関東大震災で焼失した区域
 - 関東大震災時に既に設置されていた主な公園
 - 焼け止まりとして機能した公園
 - 復興大公園（3公園）
 - 復興小公園（52公園）
- ※復興大公園は広域からの市民利用を考慮して国により設置されました。

復興事業で三大公園(隅田公園・浜町公園・錦糸公園)と52の小公園(小学校に隣接)を新設する
もともとあった公園も大規模なものに新設



隅田公園



浜町公園

②道路



幹線道路：各地の主要な場所をつなぐ道路
昭和通りや現在の靖国通りなど 52 本を新設・改修
区画整理のためにポスターなどメディアを利用して
住民の理解を得ようとする
現代はモータリゼーション(自動車の普及)が進み、自動車は
人・モノ両方の輸送の面で大きな役割を果たす

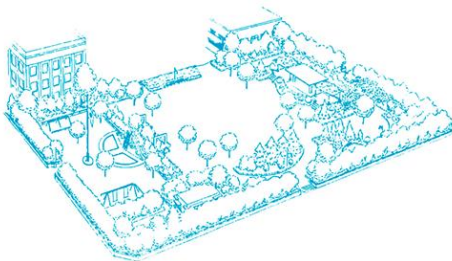
昭和通り



Q2 道路の幅を(広げ・狭め)、区画を整理し(曲がった・直線の)道路を建設した

③緑地化

緑地：防塵機能・防音機能・遮光機能・防風機能・防火機能など多くの機能を有する。



一般的な小公園の鳥瞰図



明治神宮外苑のイチヨウ並木

水分を多く含んだイチヨウなどの常緑広葉樹で公園を囲う。街路樹として道路と歩道の間に植樹。
防災のみでなく保険休養・環境保全のためにオープンスペースを確保しやすく、都市の安全性・健康性・快適性を保つことから現代における都市計画でも参照される重要な要素

*避難した人のほとんどが亡くなった旧陸軍被服廠跡地は緑地化が進んでおらずただの空き地になっていたため、家財道具に火が移り被害が大きくなってしまった

Q3 関東大震災後の延焼を防ぐための都市計画・街づくりで実践されたものはどんなものであったか。
簡潔にまとめてみよう！

エキスパート資料Ⅱ ～燃えない街づくりと人の移動～

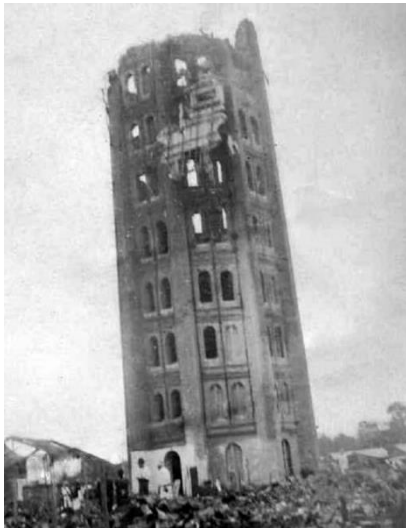
(1)震災前の建物



震災時の浅草



明治時代の永代橋



浅草の凌雲閣

Q1 関東大震災前の日本の建物は基本的に(木造・石造)であったため
火が移り燃えやすかった。

橋は焼け落ち交通が杜絶し、市民は逃げ場を失い炎に囲まれ焼死する
か川に飛び込み溺死した
また当時はレンガ造りの建物も多く作られていた
左の凌雲閣(浅草十二階)もその一つだが、地震の揺れに耐えきれずに
倒壊した

(2)建物の材料を変える＝鉄筋コンクリート製：燃えず揺れにも強い

①復興小学校



東京市京橋尋常小学校
(中央区京橋小学校、1992年に統廃合)



東京市泰明小学校
(中央区泰明小学校)

地域コミュニティの中心
および防災拠点として隣接する
小公園とセットで作られる
この手法が全国各地に広まり
神戸でも忠実に実行され
阪神淡路大震災の際には
その意義が実証された

②復興橋梁



建設中の永代橋



建設後、現代の永代橋

デザインを重視しながら焼け落ちることのない鉄製の橋を整備

③住宅

同潤会：1924年に帝都復興のために国内外から寄せられた支援金をもとに帝都復興事業の住宅製作の担い手として設置された財団法人(会社)

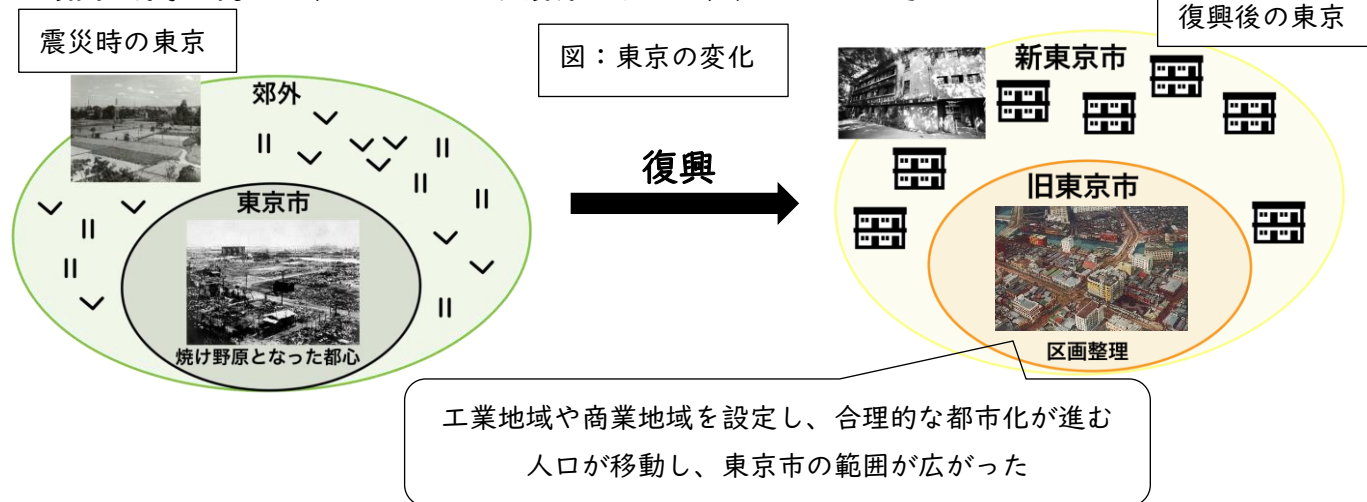
電気・ガス・水道・推薦式便所など最先端の近代的な設備が整い、モダンな集合住宅で近代的な市民生活が送れるため好評で多くの中産階級が暮らす
日暮里などにあったスラムを全面買収し、衛生的なアパート群に建て替える活動も実施



表参道の同潤会アパート

(3)人の移動

震災で打撃を受けた都心だけでなく、農村であった郊外も宅地化を進めた



Q2 東京の人口はどのように変動したのだろうか。また、それによって市民の生活はどう変化したのだろうか
上の図と下の表をそれぞれ参照して、簡潔にまとめてみよう！

年	旧東京市	新市域	合計(千人)
1920	2173	1177	3350
1930	2070	2899	4970
1932	2100	3211	5311
1936	2284	3801	6085

エキスパート資料Ⅲ ～メディアの発達、都心へのアクセス～

(1) 震災前のメディア

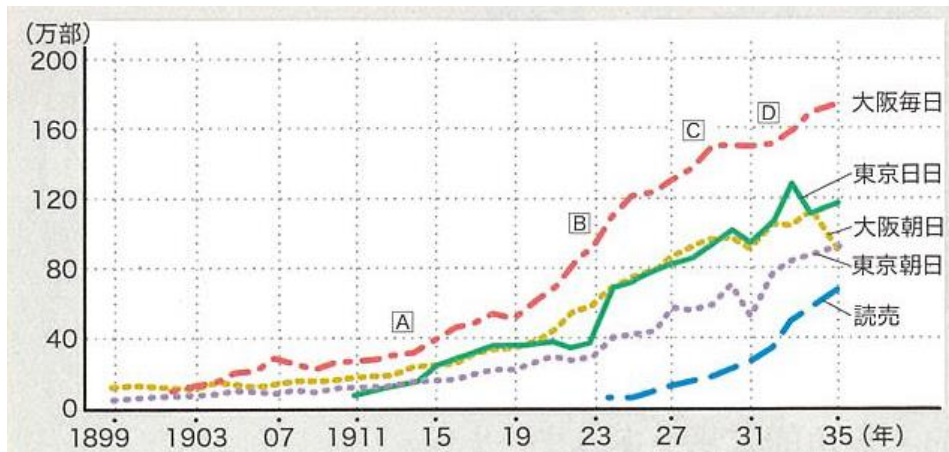
＝紙媒体の新聞や雑誌が中心。識字率(字の読み書き能力の割合)が高いため、ある程度普及

⇔震災時、大手の新聞社 17 のうち、14 社が倒壊し情報の空白化が生まれた

➡根拠のないデマが広まり、朝鮮人の虐殺などの事件につながった

(2) メディアの発達

① 新聞



新聞の発行部数の推移

Q1 新聞の発行部数は震災後には急激に(増加・減少)している

② 新メディアの登場



1926 年製造



1931～33 年製造



1943 年製造(戦時中)

1925 年ラジオ放送の開始

：後藤新平が放送局の総裁となり、普及を目指す

1925 年時点では受信者は約 5000 ほどであったが、1928 年には 50 万、1931 年には 100 万と急速に受信者を増やし、影響力が増大

ニュースが多くの人に即時に共有されるようになった

提供するニュースや娯楽が家族の食事や団らんの一部となる

新聞や大衆雑誌、ラジオなどメディアの需要が増え、大衆の消費生活を促す宣伝の場にもなったが、一方で普及率が上がったことでメディアは政治家によって利用されるようになった

(3)都心へのアクセス

表：東京の交通機関別分担率

	1919 年	1926 年	1930 年	1935 年	1940 年	1942 年
鉄 道	90.3	77.6	62.5	48.5	52.6	60.3
地 下 鉄	-	-	0.9	2.1	4.3	3.7
郊 外 電 鉄	8.4	14.3	17.2	15.8	20.9	21.5
市 バ ス	-	3.0	3.6	5.8	5.9	7.9
私 バ ス	-	2.9	7.2	12.5	11.6	5.0
タ ク シ ー	0.3	2.1	8.6	15.3	4.7	1.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
総 輸 送 量	496	881	1106	1361	2260	2612

(単位－各種交通手段：％、総輸送量：100 万人)

新たな鉄道の敷設が進み、1927 年には地下鉄が新設される。道路の新設・改修など、他交通機関も発展し、都心と郊外のアクセスが容易になった

Q2 都内の交通手段はどのような変化を遂げただろうか。上の表を参照して簡潔にまとめよう！